へ13
3881
1

へ13
3881
2

兒鑑東孝經

東里山人作
英泉画

前編

泉市版

へ13
3881
1

門へ13
號3881

東里山人作
溪齋英泉画

全部六冊
前編上卷

兒鑑東孝經

文政九年
丙戌春販

耳泉堂上梓

身體髮膚。これを父母に受く。敢て毀ちそこなはざるは。孝の始なり。身を立道を行ひ。名を後世に揚てゆくは。父母を顯はすの孝の終なり。とある。それは經書のおしへ。えまの中にもあらはれたり。堂上の方々も。厭はぬ。今年も例の合卷に向もあるべしとて。松ヶ屋主人は短冊紙に暮まに考へ。こそ。借ありきものの孔方金と能知るものあり。春の扇のくまに世の変化を見る。樣と春翁を捉神の。彗。は持関の口上も容れらしく。藤八五文の奇妙〳〵。郭角目さまの新ら。紀ゴヤンヤトかちをとり仲間三人有余の木郭の人余の蝦蝎も。一時の花のさく意とある。作者が復の減ずに。御免〳〵と。敬ろく自するのあり。

略町〳〵

文政九丙戌年正月發兒　東里山人誌

ある日ゑ神田おまつ
名所泉堂の生人作者が
ものうくさぶらきのうりきたりて
つげしいつらく先生このかたとそ
稿しくさいく食ゑんの者うるも
花あいゆるあぐまて美番ぐうの
役者のおぐれ あるひハせうす
おまうろり名ぐれまこーぐらもの
なるむきいうは三ぐるられいとうるる
おうりめのあまれおーつはあぐら
先生のおつまとなるうふもそいとの
ちうんとぐれトーまずトいられて
ほらき作者のうのうとうの
たうとうあまちるをこ三ぐんうろて
おざれがめんぴをしまふぜうれ
ぜうめいまづ者せふまうのう
ゑぐうふうとれあれかあうま
どうくあれまふりうきあうの
たうをまくあきうらたつめいうる
まじあるわどうれいとはゑ物さる方の
目ゆるあまのあちをとるいと
あれまある六さうりのむうーくの

京傳ぢう「ちどうくく
ゆまと孝きまくと
だんぐくしてさうそく
いづくやのあるーくおうう
出板のるのきたのこ
ゆうれよう
まるのロゑ

ちょくく

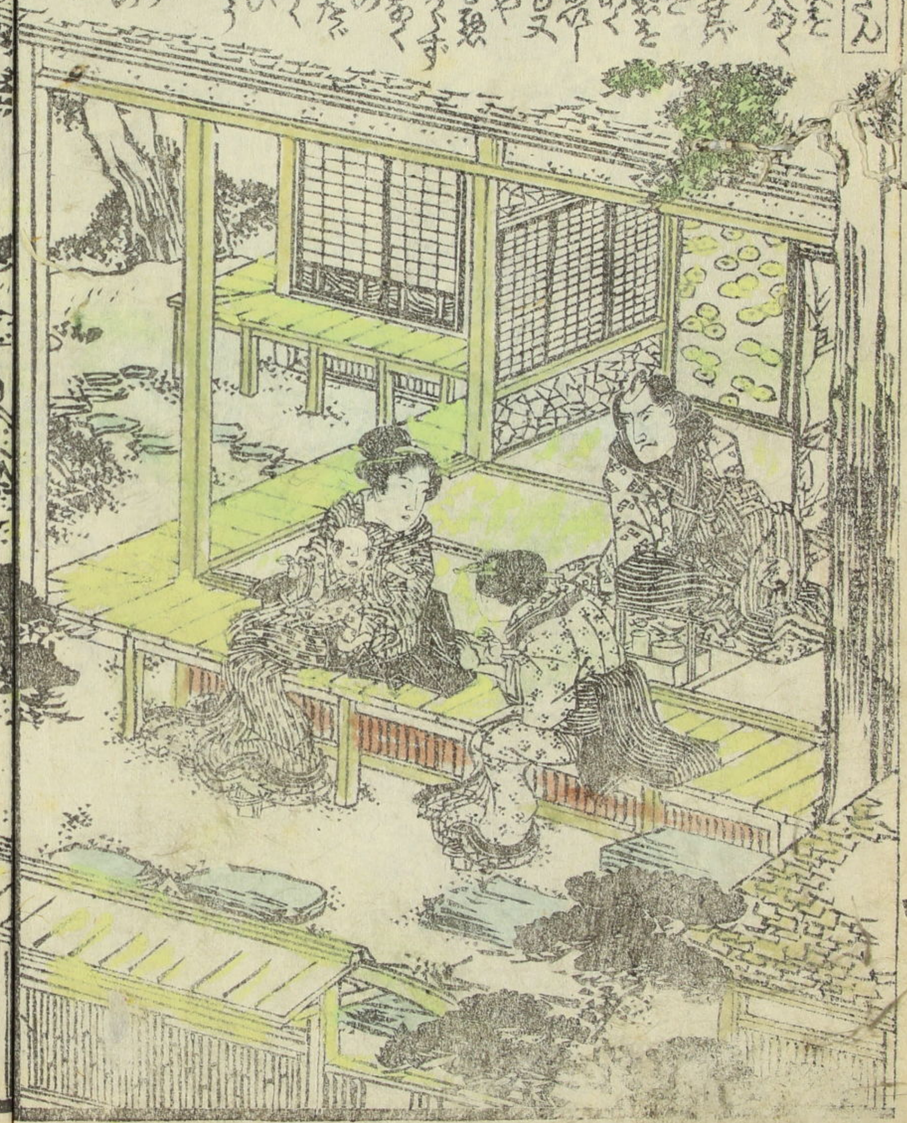
○釜藏国玉川里
小金井花王妻
ヌ造
あらまし
ものがたり
面白
夏の雪
鼻山人

○陸奥国白河在
日名ヌ村長者
人買藤太
藤太躬
玉清
東里
面白

○小金井花王勝
白王九
面白
こゝの筆
九陽

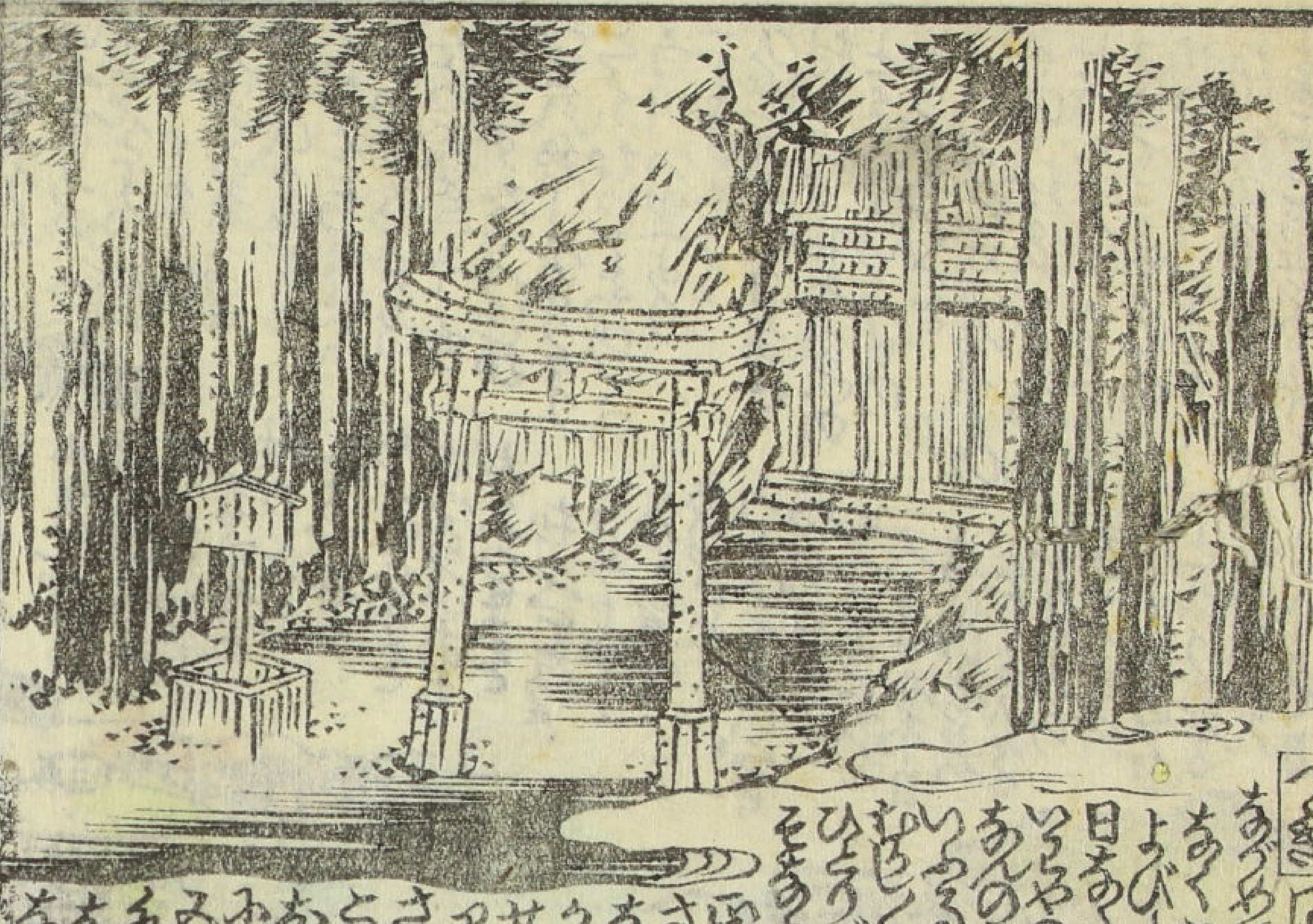
物語あらすじ

とある人一日一夜を
ゑらぶあるべき人
四方のれんあり
一ぬん銭をもて
せう銭一ぬん銭を
らく十ぬん銭を
おとせば十せんあく
あんをうくあり
子あくのぬしもと
あるまりとや
さればかうある銭
あれあとすぐうず
くふあるこれもあく
おいせんどうの
ふもあるてんだ
あの旦ご利うく
ふのこせうひ
あくどうがんのう
の身をせあり
るをもらず
してうとしまの
んあるものの
なるべあぶく



▲くれば今人
人のあり
ゑをとめて
日をさ村ふ
村つさも
あびざる
をの家を
あらひまつ
たふつまを
なるべて後に
ッちゃ
白川の里より
つまをなり
ひじのざの日あさ
村といつこふ人のい
とうちといふものの
ありふりくを
つぐりてしひきうの
のなすあをとの
とうあひいんど
ゑにてこ見をとけの
せのあうりごうよく
ひびの今をあふけて
ままるを者ふあり

◐おのごきこ
男のまを
ゆゆみくれがとうを
ごとろこびりあごうめ
あくず上ひふるあきこうう
てだんせのをとうごとうくいと
ゆをさくをきこうりうとく
者茶のるひあれがあもりをめのと
さじびきてくをよまるふと上
ゆくるまふゆくる月日のをあく
ゆたちてニッニとをきいびば
ゑるかをちるこをあるにとあの
らーくをうをうあ

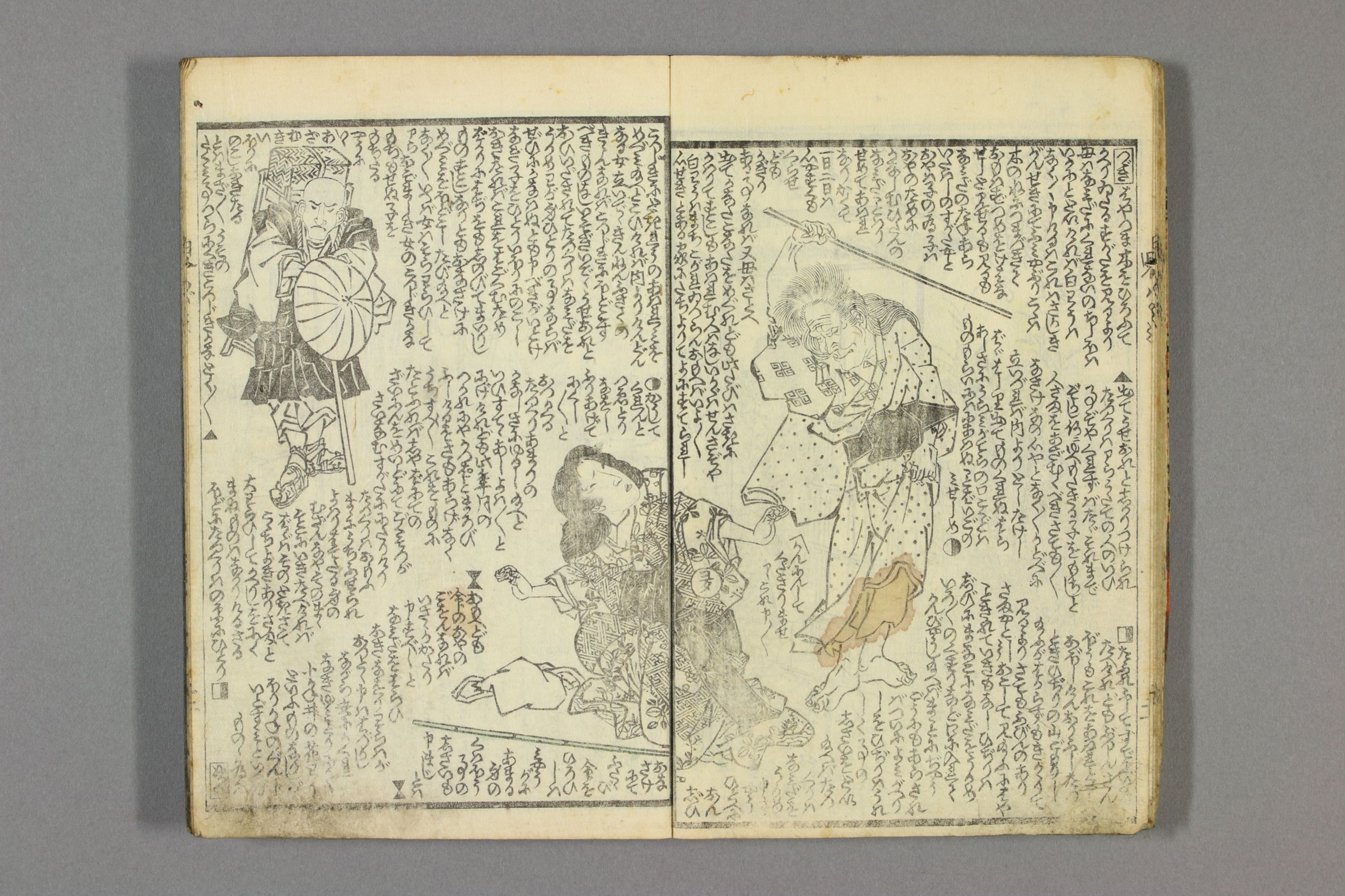


つゞき 月日ハ〳〵とたち
まづゆてちやうあいのうへ
あくこれをおさむるともぞ
よびさうなることに又
日あるごとうげの下にとふ
そうやの此ふ神をまつると
いつるゝハあらぎれども
むかしくより此あたりや
ひとつづいけ本をを
そまつるうあつてむかし
五月十六日ニ上方の
さゞうあく人こぞうて
まうでさのあハひその
うゑあずあうきおぎを
せうぎあどろきてとれを
まゐうにおすすゝ人ども
さうふきゆるうあく
とれを起うしとして
あはじとして六月十六日
ふいけ神を二十あく
みどくおあうをいのうに
わそんうんの五旦の
あくでんやさともふりきく
あるうたの村に百姓のせり

本のつゞき 天下あふぎ代おふして
あけきのあーむろぞおさしききお
らときおもたゞ三旦をお一年あひハ
ありうりの女うに若者ふあうふの
あげきをきゝてねぎらんねしも
あ三旦ふあのひとつふをでを
ねらしてゐ五をくるを一七ゆうに
さらげのむらやのあつまで一七日の
あのさいの神あぶるどあのつとを
あげきき世のあをば神とうえを
ふうふあ日さえしてともあ
いのれどもさらふその
みいあく二七日ふもあり
われが若者あまうの
うまーさあふつらぬ命うたくさんの
こが○をぬうといふ子ども一人の
子ふ女ハうさし神まで
ちのきゑれちどのうあれバ
命をなまけたびの人その
きんわりじふれバいうやの
まつあて百人の女をとあを
そゝうべうらをそふーまのら
せんあ〳〵まきおぬ命を
なまけの人ときき世のあを
その上もしさらふ返しかまき

つゞき
テンテン
テケテケ
十四日の

つぎき
白



白
蓑

御かほの妙薬 美艶仙女香 一包 四拾八文

此くすりハ享保十一年廿一番乃船主伊□九と云る清朝人長崎丸山の近江屋の遊女菊野に授ける顔の薬ハ奇方なり傳へて清朝今の世宮井の婦人常ハ此薬を用ひ□□るなしとぞ右の傳方を今世に□□□家に傳へる故此度世に弘むるものなり□□顔の薬と称するもの□□あれども家方ハ妙薬別種の新剤にして世上の顔のくすりと一列に下看なりと□□功能左にしるす

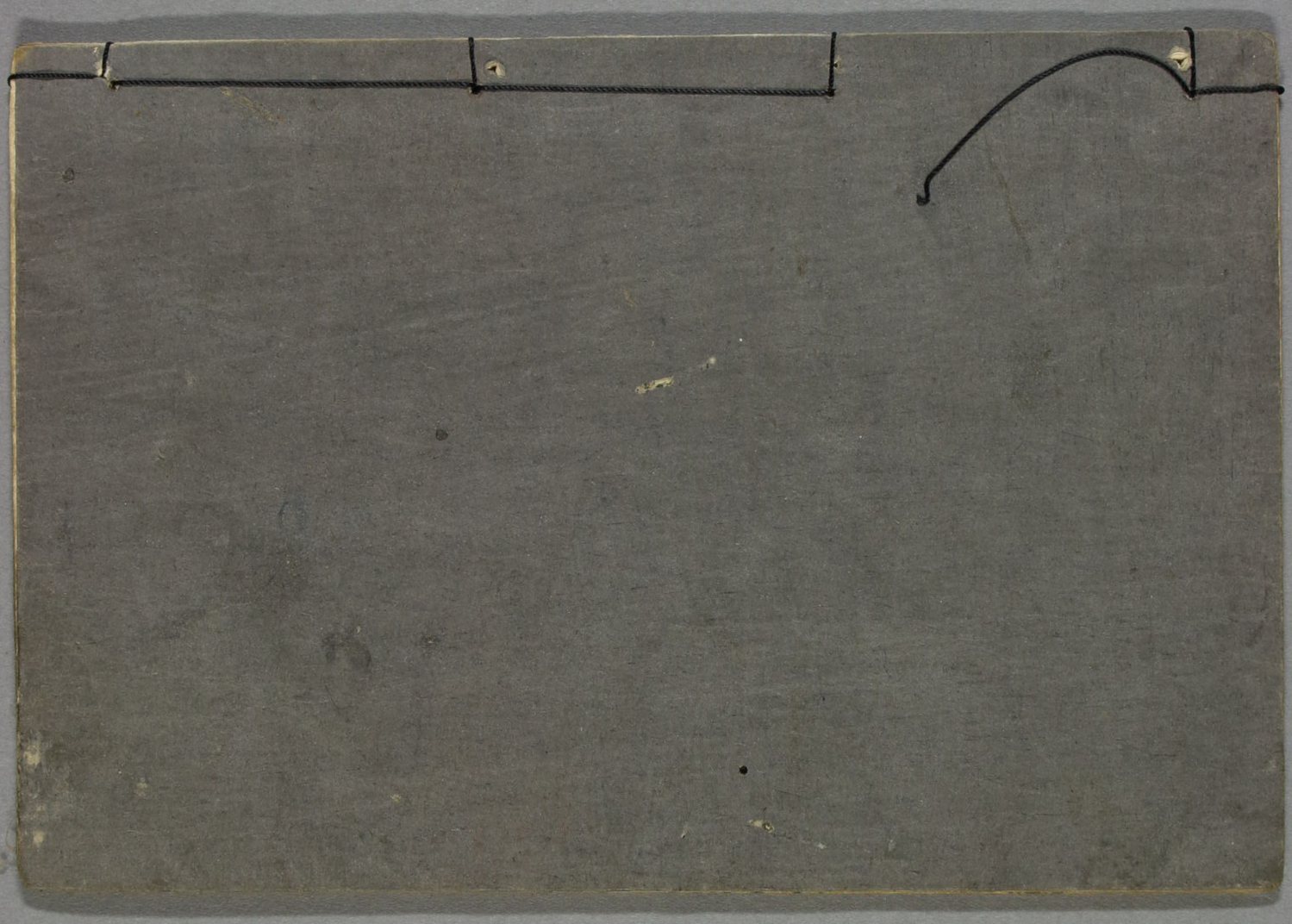
英泉画 東里山人作

▲常に用ゆるくいろと向くきめこまやかなる▲もこのそばすぼしは
▲できものゝ中に成るかゆく治る▲いもがわに用て毒をといもと煎
▲ふきびかわにてできものに塗めるり▲さゞ波うるかに業ゆる
▲たゞに用ゆるべ業くけてもかわに赤くのよるるのなり
▲熱湯一切のできものに塗り▲ひぐたむうるしかぶれあせもに
塗るり股のもれ出すまる所へ貼てよし

調合責弘所　江戸横山町三丁目　坂本氏

右の品々手ろ十包以上れりとあり代銭三百文
上　三役女郎　ゑめい貝粉末の中に煎ふけいぶ所として売出す
十包以上に求めと長い長八出好の役者名録の中に出ス事奉
○男ひやうあらくさきにつけてもよし

取次所　江戸芝神明前　泉屋市兵衛
　　取次　中田氏
　　本所二ツ目町
　　源川幾代



へ13
3881
2

東里山人作
溪齋英泉画

兒鑑後編

全部六冊

丙戌春販

泉市上梓

いろやの弟くらみ
ふびんやとあきらめて
あしあきらめてかえる
▲つゆみそのとの六月
十三日みなみ日あさ村みつき

白

「イサあるうえ
ちりをはらせられよ
「さらべでぐらりまうす
「うくあホ
あのあそ
ゲラ」

「ぞんしよ」

「おれどの
ゆみ
まえの
そうこ」

「つぎき」

あら孝行の
ためふだを
うりとるの
ちきえて
なるれば

「ミまえ
を
あらきぶ
ふだ
うけ」

「さるのうめのつぶるるき
たり又ひとりのこのこつの
とやらをたもちるなら
ゐむやたひのうりせ
ぞえまひらせるよとわれど
つとのこちを立のうまば
うりく百人むりいろく
のあるそくしてもりつまとう
うとあるところをつぐくせう
あちりまきのがくをそうせば
そくとこびーきうんやーきま
あぬせうげふたるつうふ
のぞりかのまるのいとれあむの
わうとうをにきりまるぞーを
そうくいうちのこをとふーあうこ
いくをむをひあうれんして
そのうちとうこをあらげ
るるもしとうてはるる
いるのうくふあーうせうれば」

白

白

つぎき つげをおそれます里へかへる
はまべ人をごろうかおやのぼだいをよし
あんちゝゝのそきをのそひとつふたつの
おどろきさるの内うけゆへと日ごとに
あくらやまひていつまでもつぎき
まゝのふせしかれ孝心のいきを〜
あるべしとてふ文白からが母
たからへかくともなふがたり夏が
子のゆくゑをたづねんとりぐへと
あそこへおもわれども大井川のさとまで
立そでふしもひじもあらねひの
んつてしのそでしあまさきそその
うへのかみがらんうら子ゆへぶきまつの
まちのくのあのぶまする
うまし ささたれ
あら川てとぐぐらん
うとゆきろもかりしう
さるよりひしが
とぶのきまる
さくゝち
のくの
たまやも
よそふ
まつ

▲あまとたのむ
ちゝひのくらんせ
えん子あの里ふ
いつか又日もたけの
つらちてさころ
とげへあまみある
人やどりそうす
うべの里もさきと
と引あひとつの
山路しこち
づまと
あり

たびくの毒の
うつすどらん
なりかたくりも
おりしるのども
ものがらりしてつかうまの
ゆゑあらを大づびんみるふきさとえ大ぐ
ひよりきなよひ出ふとさあがるがらふ
いのれびなの山路しもあのとうぐ
さぞかふびんの子のふくろまれくちうして
たづねるその子かなしいかきまよべれべ
志臣のちう目をを水ぶつらぐてふまぐりて
すまぐるずといふもうたもちまちまぐりの

▲まがさとまつて
らちうをむびたる
さちかみがらんの目をさく
きらがあてたうりの
ゆかのきさらうらちしと
目をひらきやぶまかへのまえ
あれぬ雨ゆへゆきうへくは
らうくとさふ大井川の
里より一丁ま程ひじのさひ日ろさ村
といて雨まりしきぐまうりたうりも
さそれるくのろまるんのぎさき
もあくききくりいひとつふわじんの
ちりしきれがただちりをうすも
らさびろくとのさとれいまます
母しさかきしてのきさるな
よつかしかなどうちえ
とられきでもりのしや
白良の君の乳母人
のまし、まきれかと

「これ
あり
がたい
おあき
けや
ごぶり
ます

つぐく

玉
白
た

つゞき
どうぞをちゞめさしへらめていぐいぢにてそのせんつがう七百よねんまでぐんよゝのところへミゝの若君のそてらのこてよろひかぶと身をさしみまちのあら川を立てむきしのくにたる川の里におしよせありしよの

◬白つゞ丸がまへにきし出しまねんらのことかのひのにうゑのおにかゝのいざなひうさへつかやく主君が白つゝまさやそれとられをそうりうぞび立ぞくのくれしまたね人あれがられくがたかうりてころちよもうゑのくびをとやそくくまにうちめいしぞ名をとるのられよとおりられがおしじいまぞおーのどび白つゞ君のゆうきさまんにまーませどものまご中若くれのわそうてのでおくくいとまざもがくびうちぬらんるのいともゞしてぶようがいれどのそうべきそしてらうびのどきおうにぶちこのれがようにられをとうちかうぶするがんれのちからにぞそもおそきれがあんぢ二とび出家なすといへども白つゞ君ふるしそいゞずきがくびをうちとるべしとあきなのゆめのつげより

ぐんじいゞずまどうせんにおのびくるうまにおよあら川だんかんさんぷんしきのころむやあかくつうやまきおぎゞのなうさきにありひのいつぞうはれどにおきらくとおときたがくくつのにうちまけそおゞがのあひへうるゝめのうぞきとおらずあがおめへんで山とありちへあされて川とあのおらのちまさの四く八く目もあそられぬありさまありうるむへなじむしやひとうひくまりのそろのがうそつうえふつききうにおあら本のさんぞやうをたがさくさんぞうのくへ力がりうのらどずいうがあらがくびをのせて◬

それがしつのきうりぐさのとめて若き中にりかくのどくとうおらがくびをうちとりておきんせうと

次へ

つぎ
ゆく
三十九
三十

文政九年丙戌春新版稗史目録

金毘羅船利生鑑 三編 六冊 曲亭馬琴作 溪齋英泉画

大鹹莊子蝶四郎 六冊 曲亭馬琴作 歌川國貞画

兒女東老經 六冊 東里山人作 溪齋英泉画

一寸見南志今稔新版 六冊 市川三升作 歌川國貞画

英雄仙女香 功績奇談 呼猫事 三冊 坂本氏

兒櫻法華房 六冊 尾上梅幸作 歌川國貞画

奇姫々絲屋繻子婚 三冊 東西菴南北作 溪齋英泉画

柳亭種彦作 五渡亭國貞画

発兌 地本問屋芝神明前 和泉屋市兵衛 林